公益社団法人　隊友会　https://www.taiyukai.or.jp/

今こそ読むべき一冊。激動する国際情勢と防衛力整備の方向性を示す、防衛関係者必携の最新特集**「ディフェンス63号」が令和8年1月20日**に発刊予定（4面に詳細）

隊友

令和7年10月15日
第858号　毎月1回・15日発行
発行所　公益社団法人 隊友会本部
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
電　話　03(5362)4871・FAX4876
購読料　1カ月120円（税込み送料別）、1カ年1,700円（税込み送料共）
kouhou@taiyukai.or.jp

隊友 web 版はホームページ右側の web 隊友紙から

東京都隊友会

悠仁親王殿下加冠の儀奉祝活動に参加

9月6日、悠仁親王殿下が昨年満18歳の成年を迎えられたことにあたり、宮内庁は悠仁親王殿下加冠の儀を行った。これは、令和4年に民法改正により成年年齢が20歳から18歳とされてから初めての加冠の儀となり、東京都隊友会は、奉祝活動に参加した。

東京都隊友会は、悠仁親王殿下の加冠の儀を奉祝するため、加冠の儀への移動経路沿い（赤坂御用地巽門～赤坂見附）において、また9月9日には武蔵御陵への参拝経路沿い（綾南公園入口～多摩御陵入り口）において、延べ35名の会員をもって奉祝活動に参加した。両日とも晴天に恵まれた中、奉祝のために沿道に集まった多数の市民の方々に国旗の小旗600本を日本会議東京都本部・神道政治連盟東京都本部等の有志とともに配布し、悠仁親王殿下通過に際しては参加市民の方々と共に声を合わせて奉祝の言葉を届けた。悠仁親王にはにこやかにお手を振られてお応えいただき、奉祝の気持ちをお伝えすることができた。

武蔵御陵前の沿道で横断幕を掲げ小旗を振って祝意を示す隊友会員

武蔵御陵での奉祝行事に参加した東京都奉祝委員会のメンバー

◇解説　加冠の義とは親王や内親王が成年に達したことを公に示すために行われる宮中の伝統儀式で、平安時代以来の「元服」の儀式に源流をもち、現代においては成年親王や内親王の慶事の折に行われる。

悠仁親王殿下の加冠の儀では、天皇皇后両陛下御臨席の下に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御前で加冠役が悠仁親王殿下に賜冠を加えた（冠をお付けした）。

発煙筒　精神的支柱

映画〝雪風YUKI KAZE〟を観た。太平洋戦争において数多くの主要な海戦に参加したにも関わらず終戦まで沈むことなく任務を遂行した奇跡の駆逐艦であり幸運艦と呼ばれていたことは知っていたが、映画を観て新たな感動を覚えた。

映画で艦長を演じるのは竹野内豊、先任伍長は玉木宏というソフトタッチのイケメンで鉄拳制裁やビンタなどとは縁を切った演出であったが、砲術長と水雷長が良い味を出していたことに加え、戦闘の修羅場と任務に対する執念が充分に伝わってきた。同時に、船という運命共同体における艦長と乗員の関係や艦（部隊）における指揮官の意義を改めて考えさせられた。新たに赴任した艦長がどのような人物かを見定めていた乗員たちも、艦長の見事な判断と巧みな操艦指揮、揺るぎない任務意識に触れ、信頼感を強めるとともに、この艦長と一緒なら大丈夫だという安心感を持つようになる。雪風に関する書籍にも、当時の艦長が「雪風は絶対に沈まん。なぜなら私が艦長だからだ」等の威勢の良い訓示をし、その後の冷静な指揮ぶりもあいまって乗員に安心感と自信を与えた様子が記載されている。多少のデフォルメはあるにせよ生死の境にある戦場では、このような精神的支柱の存在が命運を分けるのではないだろうか。

雪風とは全く異なるが、精神的支柱で思い出すのは2023年のWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）日本チームである。決勝戦の直前、大谷翔平選手がチームメートに「憧れるのはやめましょう」と檄を飛ばした。米国のスーパースター選手たち相手に委縮することなくプレーし、優勝しようという思いを伝えたものだ。しかし、何よりも大谷選手の存在こそが他の選手に自信と安心感を与えていたことは間違いない。なぜなら圧倒的な実力と人気を有し、MLBプレーヤーの憧れと尊敬の対象こそが大谷選手だからだ。その選手が同じチームにいることほど力強いものはなく、優勝の原動力になったことは誰もが認めるところだ。

部隊においても行動や言葉で隊員に自信と安心感を与える指揮官の存在は重要であり、任務が危険なほどその意義は大きなものとなる。現在、自衛隊の各部隊でもそのような指揮官が数多く活躍しているに違いない。

（常務執行役　引田淳）

世界陸上東京２０２５

自衛隊体育学校　勝木隼人1陸尉が銅

先頭を行く勝木選手

9月13日に開催された世界陸上男子35キロ競歩で、自衛隊体育学校所属の勝木隼人1陸尉が銅メダルを獲得した。

男子35キロ競歩には2022年オレゴン大会銀メダルで23年ブダペスト大会銅メダルの川野将虎（旭化成）と丸尾知司（愛知製鋼）、勝木隼人（自衛隊体育学校）の3人が出場した。主な結果は次の通り

◇金メダル：エバン・ダンフィー（カナダ）2時間28分22秒
◇銀メダル：カイオ・ボンフィム（ブラジル）2時間28分55秒
◇銅メダル：勝木隼人（日本）2時間29分16秒。川野選手は18位（2時間37分15秒）、丸尾選手は26位（2時間40分29秒）。

勝木1陸尉は福岡県立武蔵台高等学校卒業後、東海大学に入学。2014年に陸上自衛隊に入隊後15年に自衛隊体育学校へ。最近の主要成績は21年東京五輪30位、25年全日本競歩能美大会優勝。

令和8年度防衛省概算要求について

伊藤　弘（隊友会常務執行役　元海将）

はじめに

令和8年度（2026年度）防衛省概算要求は、過去最大の総額8兆8千454億円を計上し、前年度比約1・7％の増加となりました。本概算要求は、防衛力整備計画（5ヵ年・総額43兆円）の4年目に当たり、「防衛費9兆円時代」の到来が現実味を帯びてきました。本稿では、本概算要求の全体像と注目すべきポイントに触れた上、国家安全保障戦略等改定の可能性、次期防衛力整備計画策定を視野に、筆者独自の観点でのコメントを論述してみたいと思います。

1　概算要求の全体像と背景

今回の概算要求は、2022年に策定されたいわゆる安全保障関連3文書（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）に基づき、5年間でわが国の防衛力を抜本的に強化するという政府方針の4年目に当たります。令和8年度は、まさにその後半戦に入っており、計画の成果と課題がより明確になる年でもあります。

要求額の増加は、ウクライナ戦争、台湾海峡情勢、中露による軍事活動の活発化など、わが国を取り巻く安全保障環境の悪化に加え、物価高騰や円安の影響を受けた装備品価格の上昇が背景となっています。

2　重点分野と注目施策

（1）無人アセット防衛能力

今回の概算要求で最も注目されるのが、無人機（UAV・USV・UUV）を活用した「多層的沿岸防衛体制」（SHIELD構想）の構築です。当該構築を含む関連経費は3千128億円と、前年度（千110億円）の約3倍に達しています。

・SHIELDの構築（千287億円）
・UAV（広域用）の取得（111億円）
・滞空型UAV「MQ―9B（シーガーディアン）」の取得等（770億円）

この大幅な増額は、ウクライナ戦争で無人機が戦局を左右する存在となったことによるところも大ですが、西側先進諸国の中で無人アセットの導入、活用が最も遅れていると言っても過言ではないわが国の関連防衛施策の大きな転換点と言えるでしょう。

（2）スタンド・オフ防衛能力の強化

敵の射程圏外から攻撃可能な「スタンド・オフ防衛能力」には、過去最大の1兆246億円が計上されました。

・国産12式地対艦誘導弾（地発・艦発型）の取得等（2千160億円）
・島嶼防衛用高速滑空弾の開発・取得（千276億円）
・極超音速誘導弾の開発・取得（千47億円）

これらは、いわゆる「反撃能力」の中核をなす装備であり、抑止力の強化と同時に、敵の攻撃を未然に防ぐ能力の向上を目指しています。

その他、注目すべき施策としては、統合防空ミサイル防衛能力や領域横断作戦能力の向上、航空自衛隊の「航空宇宙自衛隊（仮称）」への改編といったものが挙げられますが、紙幅の関係から本稿では割愛します。

3　自衛官の処遇改善と人的基盤の再構築

自衛官の処遇改善には7千658億円が計上され、以下のような施策が盛り込まれています。

・宿舎の老朽化対策等（千50億円）
・隊舎・庁舎の整備（61億円）
・臨時託児サービスの導入（2億円）

自衛官の募集難が続く中、防衛省は「自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」に基づき、人的基盤の強化に取り組んでいます。令和8年度も引き続き、定員の確保、事務官等の増員、勤務環境の改善が重点課題となりますが、これは単なる人員確保の為のみのものではなく、「自衛官であることの誇りと名誉」を再定義するという防衛省の本気度が試されています。

4　施設強靭化とその課題

防衛施設の耐久性向上や地下化など、施設整備には1兆636億円が投じられます。

・既存施設の更新（5千365億円）
・主要司令部等の地下化等（364億円）
・火薬庫の整備（692億円）

現行の防衛力整備計画における施設強靭化関連経費は総額4兆円の計画となっていますが、これまでの進捗は緩やかであり、残り2年で約2・2兆円を積み切れるかが焦点となりそうです。火薬庫、司令部庁舎の地下化などの重要施設の強靭化は、建設資材の高騰や人手不足により遅延の懸念があり、ここでも防衛省の覚悟が問われるでしょう。

（2面へ）

隊友会　寄付者芳名

滋賀県特別会員
奥村　直広　様　5千円
（九月三十日現在）